

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学拠点連携校共通						
教育プログラム・コース名	連携7校共通：がん学際領域の医療者養成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士など						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	①学際領域としての腫瘍循環器学の病態と疾病管理を理解し、多職種・他科と連携して適切な医療を提供できる人材 ②学際領域としての腫瘍腎臓病学の病態と疾病管理を理解し、多職種・他科と連携して適切な医療を提供できる人材 ③学際領域としての老年腫瘍学の特性や病態および疾病管理を理解し、高齢者の状況に応じた適切な医療を提供できる人材						
修了要件・履修方法	所定の講義・実習を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	①心エコーによる心機能評価 ②バイオマーカーによる心血管合併症評価 ③irAE心筋症 ④Cancer VTE ⑤がん治療における循環器合併症 ⑥腫瘍循環器ガイドラインに基づいた現場での演習 ⑦老年腫瘍学総論 ⑧高齢者機能評価 ⑨多職種チーム ⑩各臓器別の老年腫瘍学 ⑪老年腫瘍学におけるエビデンス・ガイドラインの概説 ⑫老年腫瘍学演習 ⑬がん薬物療法開始前の腎機能評価法 ⑭薬剤性腎障害の定義と評価法 ⑮薬剤性腎障害・高血圧の疫学と病態 ⑯CKD患者に対するがん薬物療法 ⑰薬剤性腎障害への対策 ⑱腫瘍腎臓病学演習						
がんに関する専門資格との連携	腫瘍循環器、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学の専門資格は現在はない。がん専門薬剤師（日本医療薬学会）の研修単位は研修趣旨に合致するものは単位発行を申請する。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん治療の複雑化や分子標的薬の発展及び高齢化に伴い、癌治療を行う際の心血管合併症・腎障害・高齢者におけるがん治療のマネジメントなど、がん治療における学際領域の知識や経験が必要なケースが急速に増加している。そのため、がん治療に従来携わっていなかった医師、歯科医師、看護師、薬剤師、セラピストなどの医療スタッフががん治療の知識を学ぶ必要性、逆にがん治療従事者が循環器・腎臓・老年医学の知識を学ぶ必要性の双方が増している。本コースは連携大学が協力し横断的にがん治療に伴う学際領域の知識を集約して学ぶ機会を提供することにより、がん治療に特有の心血管合併症・腎障害及び老年医学の知識を体系的に学習できることを特徴とする。実習も取り入れることで知識に留まらず、実践的な診療マネジメントも学習することができるため、エビデンスが不足している本領域においても実践的な学習を行うことが出来る。現場で診療に従事している医療者を対象とするため、e-learningを用いることで受講者の利便性に配慮した受講環境を整備する。						
指導体制	東京医科歯科大学および連携大学の循環器専門医・腎臓専門医・老年内科専門医が中心となり、学内外の各分野の専門家による講義・実習による指導を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	大学病院、地域の中核病院、がん拠点病院にて多職種と連携して、領域横断的にがん患者のアセスメントとプランを立案・支援でき、最適な医療とケアが提供できる専門職。腫瘍循環器、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学などのがん学際領域の発展に貢献できる人材。						
受入開始時期	令和5年9月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	5	10	10	10	10	10	55
受入目標人数設定の考え方・根拠	連携校全体の学際領域に触れることがもめられる医療従事者が10人以上見込まれるため、受入れ目標人数を10人/年と設定。初年度は9月開始であり5人とした。						
履修者数 <small>※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0						0